

博士論文要旨

がんの患者と介護者の負担感に関する研究

大野 慎也

がん起因する負担感、患者や介護者の健康関連生活の質（Health-related Quality of Life; HRQOL）や労働生産性に影響を与えるとも考えられ、我が国における重要な社会課題の一つと考えられる。今後の日本におけるがんを取り巻く価値評価や施策議論、並びに患者や家族の治療選択の意思決定の一助に繋がる情報を提供することを目的に、インターネットベースの自己回答式アンケートである National Health and Wellness Survey（NHWS）データベースを用いて、がんの患者と介護者の包括的な負担感の実態と背景因子との関連に関する分析を行った。

1. がんの患者の HRQOL と労働生産性の実態に関する研究

がん起因する患者の負担感について洞察し基礎となるデータを報告するため、がんと診断された患者の HRQOL、労働生産性、ストレス関連併存疾患、間接費用を非がん患者と比較し、評価した。がん患者における HRQOL の低下、労働生産性の損失及びストレス関連併存疾患の程度と間接費用に関する負担が定量的に明らかとなった。がん患者群のアブセンティズム（7.00%）は非がん患者群（3.89%）と比較して約 1.8 倍であった（ $p < 0.050$ ）。また、がん患者群の中で、現在薬物療法による治療を受けているがん患者は特に大きな負担を示し、現在薬物療法による治療を受けていないがん患者と比べて、プレゼンティズム費用は 1.5 倍（ $p = 0.031$ ）、総間接費用は 1.6 倍（ $p = 0.013$ ）であった。

2. がんの患者の HRQOL と労働生産性の関連性に関する研究

HRQOL や患者の特性が労働生産性や間接費用とどの程度関連しているかの観点は、将来的ながん治療薬の評価や患者と家族にとってより良い治療を選択するための更なる洞察にも繋がり得る。がんの患者の負担を取り巻く要因と関連性の影響度を、がんの患者の HRQOL と間接費用の相関関係及び背景因子との関連性から評価した。がん患者群における HRQOL と間接費用の間には統計学的に有意な負の相関を有しており ($p < 0.001$)、がんの患者の HRQOL 向上に寄与するがん治療薬は、間接費用の減少を潜在的に促進し、労働生産性の価値観点に対しても寄与し得る可能性が示唆された。また、労働生産性の損失に影響を与え得る因子として、年齢がアブセンティズムの低下因子の一つにあげられ、BMI \geq 25 は総労働生産性損失の増加、非喫煙はプレゼンティズムと総労働生産性損失の軽減に関連することが示唆された。

3. がんの患者の介護者の HRQOL と労働生産性に関する研究

がん領域の治療の進歩や在宅を起点とした治療への変化から、がんの患者のインフォーマルケアによる介護の切実性が増してきているものの、日本のがん関連の介護者の HRQOL や労働生産性等の負担感に関する研究は限られている。がんの患者の介護者、他疾患の患者の介護者、非介護者の HRQOL、労働生産性及び活動障害、ストレス関連併存疾患及び間接費用の程度を比較し、評価した。がんの患者の介護者は非介護者と比べて不安などのストレス関連併存疾患の経験割合が高く、EuroQol 5 Dimension 及び精神的健康度スコアが統計学的に有意に低かった ($p < 0.001$)。また、プレゼンティズムと総労働生産性損失は、がんの患者の介護者は非介護者群より約 17%増加していた。

以上、本研究により、日本のがんの患者と介護者における HRQOL の低下と労働生産性の低下が定量的に明らかとなり、それらの関連性や背景因子との影響度にかかる示唆と本領域の継続的な研究の意義が明らかとなった。本研究で得られた知見は、がんの患者や家族の「一人ひとりの価値観に応じた個別化医療」の実現へ向けた、今後の日本のがんを取り巻く医療環境における患者目線の医療や種々の社会課題の議論の一助となる知見であると考えられる。

論文審査結果の要旨

氏名（本籍）	大野 慎也 (東京都)
学位の種類	博士（薬科学）
学位記番号	甲 第 3 0 号
学位授与年月日	令和 3 年 3 月 1 0 日
学位授与の条件	学位規則第 4 条第 1 項該当者
学位論文の題名	がんの患者と介護者の負担感に関する研究
論文審査委員	(主査) 原 英彰
	(副査) 中村 光浩
	(副査) 舘 知也

革新的ながん治療薬の登場、様々な最新医療技術により、がん治療環境は向上し生命予後が延長している。その結果、治療期間は長くなり、治療を受けながら社会復帰するケースが増大している。一方、限りある医療経済資源を有効に活用するために医療技術評価が導入され価値評価がなされているが、社会的要素を含めた評価における課題が多い。本研究は、患者本人のみならずその介護者にも着目し、生産性損失などを含めた多面的な価値評価に資する基礎的データの分析を実施したものである。その結果、患者では健康関連生活の質および労働生産性が低下し、ストレス関連間接費用が増大すること、さらにその要因を明らかにした。また、介護者では人道的および経済的負担が大きいことも明らかにした。これらの知見は、今後の我が国におけるがん治療に関する政策立案、医療技術評価に有用であり、介護者のための社会的支援構築の議論にも有用である。以上、本研究は我が国が直面しているがん治療に関わる医療関連諸問題に重要な知見を与えており、博士（薬科学）論文として価値あるものと認める。